

日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』英文論文特別号

” Japanese Journal of Social Welfare ” 発刊

機関誌編集委員会 委員長 柴田 謙治

既に学会員の皆様にはメールでご案内いたしました。本学会機関誌『社会福祉学』の英文論文特別号（第 54 巻 5 号）” Japanese Journal of Social Welfare ”（Volume 54 Issue 5, Pages 1 - 53, May 2014）が、2014 年 5 月 27 日に本学会ホームページにアップロードされ、電子ジャーナルとして発刊されました（「海外への発信」という目的により、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）に加盟している 17 か国の 290 大学には、紙媒体で印刷したものを、寄贈します）。

” Japanese Journal of Social Welfare ” が発刊される以前には、日本社会福祉学会は日本の社会福祉研究を世界に発信するために、” Japanese Journal of Social Services ” を発刊していました。” Japanese Journal of Social Services ” は、時には原著論文を募集し、編集して発行されることもありましたが、近年では本学会機関誌『社会福祉学』に掲載された和文の論文からいくつかを編集委員会が選定し、当該論文の執筆者に英文に翻訳していただいたものを掲載する、というかたちで発刊されてきました。発刊の頻度も 3 年に 1 回程度で、5 号まで発行されました。その後日本社会福祉学会が一般社団法人化され、白澤政和会員が会長に就任すると、白澤会長の意向を受けて機関誌編集委員会が「英文論文特別号の発刊」について検討し、今回の発刊に至りました。

2014 年度一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会の席上では秋山智久会員より、” Welfare ” ということばがタイトルに入ると、公的扶助が中心のような印象を与える可能性があるため、” Japanese Journal of Social Services ” というタイトルになった、という貴重なご教唆をいただきました。歴代の編集委員会でこのような議論を継承しきれなかったという反省点はありますが、国立国会図書館に新たな機関誌を” Japanese Journal of Social Services ” の第 6 号として継承してよいかを確認したところ、『社会福祉学』掲載論文の英文翻訳誌から「英語で執筆された原著論文による学会機関誌」に変更し、発刊の頻度も異なるため、新たな学会機関誌として登録し直すべきである、という回答でした。そのためタイトルを変更し、ISBN も新たに取得しました。なお英文論文特別号第 1 号の発刊作業をおこなった前期の機関誌編集委員会では、” Japanese Journal of Social Welfare ” というタイトルを採用するにあたって、” Social Services ” では弱まりがちな” Social Work(er) ” の観点を強められるのではないかと、という前向きな議論もありました。

英文論文特別号の第 1 号には 18 本の投稿があり、査読の結果、5 本の論文が掲載されました。執筆者の皆様、査読委員をお引き受け下さった皆様、そして前期の編集委員会で英文論文特別号を担当して下さった大島巖副編集委員長、須田木綿子編集委員、志村健一編

集委員のご尽力に、感謝致します。そして今回投稿して下さったものの掲載に至らなかった皆様にも感謝申し上げますと共に、研鑽を積み、再度のチャレンジをお願いいたします。

機関誌『社会福祉学』編集委員会は2014年度にも英文論文特別号（第55巻5号）を発売しますので、会員の皆様のご投稿をお待ちしています。投稿締切日は2014年8月31日で、送付先は「国際文献社」です。英文論文の投稿規程は、日本社会福祉学会のホームページの「学会誌」のサイトに掲載されていますので、ご参照ください。

日本の社会福祉学研究を世界に向けて発信して行く媒体として、多くの会員の皆さまのご投稿をお待ちしています。よろしくをお願いいたします。